

# 生活創造空間

# にし

NISHI

## 新・副館長 & 所長

### 参上！！

生活創造空間にし 新・副館長 & エヌ・クラブ  
所長 松本孝治

～アンラシネを目指します～

第 16 号 2013 年 7 月 10 日発行



生まれも育ちも横浜。仕事も横浜。友人が次々に横浜を去っていく中、自分だけは横浜から離れずに、そのうちに見慣れた久保山の斎場へと決めていた。

しかし、県央福祉会に仕事を移し、藤沢、大和、三浦と転々流転。

3月までは三浦海岸のリゾート施設を改修しての生活介護事業所「三浦創生舎」。東京湾を眼下に(海拔37メートル)房総半島を眺めながら30名の利用者さんと日々を送っていました。7月はスイカの生産が最盛期を迎え、最近名前が売れ始めた三浦かぼちゃ。施設の裏にはどこまでも続く農産地。もちろん大根とキャベツの時期も忘れてはならない。僕は、施設の裏から眺めるこの農産地の眺めが大好きでまるでフランス、ブリュゴーニュの風景(いったことではない)といつも思っていました。

そんなのどかな風景から、まるで都会の真ただ中(?)の西横浜の駅前。昔は、国鉄(今JR)の資材置き場。ほとんど線路と一体化していた空き地に自分が勤める県央福祉会が事業を起こすとは思ってもよらなかった。

更に、この4月から自分が、この「生活創造空間にし」で働くなどは思ってもみなかった。

誕生から5年の歳月を迎え「地域活動ホームガッツ・ビーと西」「就労サポートセンターエヌ・クラブ」と2法人が協働、連携を図りながら展開していますが、新参者にとっては大きく広すぎて、いまだに右往左往の毎日を過ごしているのが現実です。

地域的には昔遊んでいた土地で、たぶん小学校の同級生も藤棚商店街の店主の方の中にはいらっしゃるかもしれない。

西区は横浜の中でも面積が狭く、人口も少なく、高齢化率は高い地域と聞いています。古い町というイメージもありつながりが十分な関係性を作り上げているように思われるのです。

そのような中、「生活創造空間にし」は地域の方々との交流の場として育んでいきたいと考えています。

これからも、何を求めているか、求められるものは何かを確認しながら一つずつ意味を持った計画の輝きがつながるような位置づけになるといいなと思います。

今後も地域の皆さんと共に喜びあい、新たなものが産み出せる空間でありたいと願っておりますので、これからも急がずに歩んでいきます。

どうぞよろしくお願ひします。

# 平成25年度 生活創造空間にし 研修



## ～発達障害を学ぼう～



今回は…生活創造空間にしとして、就労サポートセンター エヌ・クラブと地域活動ホーム ガッツ・ビーと西が協働して開催している「生活創造空間にし研修」についてお話します。本年度は、「発達障害を学ぼう」と題して、連続講座を行っています。年5回を予定していて、6月末までに、2回が終了しました。

第1回目は5月に行われ、(社福)横浜やまびこの里の関水施設長より「発達障害総論」を講演して頂きました。自閉症スペクトラム障害を持つ人の特徴や社会の中での生きづらさという点を中心に話され、その方達の抱える課題や支援者としての関わり方を学ぶ場となりました。第2回目は6月の中旬に「医療から見える発達障害」をテーマに、ハートクリニック横浜の柏院長より講演をして頂きました。発達障害とはどういうものか、発達障害を持った方は物事をどのように捉えているのかを中心に、医院での取り組み(グループディスカッション)を交えてお話をして頂きました。

第1回目は74名、第2回目は73名の方が来館され、両日とも、西区内外の福祉施設職員に限らず、民生委員・保護司の方、保育園職員など多くの方が参加されました。多くの方が参加された背景には、「発達障害」は、現代社会において大きな関心を持つテーマであるとも言える気がします。

近年、「発達障害」という言葉は、障がい者支援施設の中だけではなく、日頃からよく耳にする言葉となってきました。ただ、よく耳にする言葉であっても、実際には「よく分からない」人が多いようです。恥ずかしながら、筆をとっている我々も、ともに10年以上福祉の仕事に携わっていながら、知らない事や誤解していた部分があったのも事実です。

今年度の研修を通して、我々支援者も「発達障害」への理解を深めると同時に、多くの方に、現代社会の大きな関心である「発達障害」を知って頂きたいと思います。そして、発達障害を持った方が、「生きづらさ」から「生きやすさ」を感じられる社会になる事を願っています。

### 次回以降の日程は…

第3回 7月25日(木) 17:30～19:30

「教育から見える発達障害」 講師：つかだ三枝子氏(横浜市教育委員会 指導主事)

第4回 9月19日(木) 17:30～19:30

「福祉から見える発達障害」 講師：浮貝明典氏(グリーンフォーレスト)

第5回 10月17日(木) 17:30～19:30

「事例検討」 講師：関水 実氏(社会福祉法人 横浜やまびこの里 施設長)

事例検討 他

是非ご参加ください!!

ガッツビーと西 森 悠紀範  
エヌ・クラブ 安達 祐二



余暇支援部会では昨年度地域密着型余暇（夏余暇の虫の音を聞く会への参加企画）の実施を試みました。結果としては好評で参加者より継続実施を希望する声が多く挙がりました。その声を踏まえ、今年度も地域密着型余暇を組み込んだ夏・冬の長期休暇中の余暇企画を継続していきます。

今年度の夏余暇では『なつの思い出づくり～一緒に夏の思い出づくりをしよう！～』をテーマに各施設がイベントを企画しています。

今年は成人を対象とした『中華街&クルージング』や中高生を対象とした『BBQ』、小学生を対象とした『夏祭り』、全年齢を対象とした『虫の音を聞く会』を企画しています。

ボランティアも広く募集し、例年多くの学生さんもボランティアとして楽しく活動に参加してくれています。

今後も皆様のニーズを元に地域に根差した活動を行っていくと共に、「また参加したい！」と思っていただけるような楽しい企画を考えていきたいと思っています。

# 県央福祉社会30年の歩

社会福祉法人 県央福祉社会は設立30周年を迎えました

社会福祉法人県央福祉社会は、6月の末に30周年記念式典を行いました、

38年前、綾瀬に無認可施設を小さなプレハブの建物の中で「こども生活相談室」の療育活動を行いましたが、公的資金は一切なく指導訓練費の名目で月謝を頂いての苦しい運営をはじめました。

前理事長から土地を無償貸与していただき昭和58年に、悲願の法人格を取り、「ふきのとう舎(旧通所授産施設)」が誕生してから30年の月日が経ちました。

設立当初は陶芸作業と印刷作業しかありませんでした。その後、ダンデリヨンの喫茶作業が加わりましたが、その当時は「障がい者に喫茶店の店員??(水商売をやらせる?)」と物議を交わしたものでした。

平成14年には横浜市へ進出し、グループホーム「ドムス」を設立。平成19年には「横浜市立みどり園」を指定管理者の受託し運営することとなりました。

そして、平成21年、横浜共生会と協働して「生活創造空間にし」に「エヌ・クラブ」を設立し、いよいよ横浜市への事業展開が本格化していきました。

今現在では9市にまたがり計90近い事業所を抱え、利用者さん数4000人強、職員数1000人を超す大きな法人となっています。

私たちの活動を理解してくださるみなさまに感謝の30年であり、あらたなスタートであると感じています。

## ♪ランチコンサートだより♪ **ありがとう！ランチコンサート**

### ～フルートで奏でる歌のメロディー～宗方雅子(FI)・律(Pi)

ランチコンサートに出演させていただくようになって、もう少しで1年半くらいでしょうか。ランチコンサートの出演団体のなかでは、まだまだ新参加者です。フルートとピアノ・・・あるときはフルート2本で、毎回楽しく演奏させていただいています。

最初にコンサート出演のお話をいただいたときは、やった～～～！うれしいなァ・・・と思いました。なにしろ楽器を長年練習していても、演奏を聴いていただく機会はなかなか無いからです。でも、いざ一回目のコンサートをやらせていただくと、どんな曲だったら喜んでいただけるのか、どんなお話をしたら良いのか、悩むことも多かったです。曲を選ぶときも、知人に好きな曲を聞いてまわったりしました。



でも回を重ねるにつれて、私の好きな曲を、「この曲、とっても良い曲でしょ？聴いてくださ～い！」という気持ちとともに吹けるようになってきたと思います。ジブリの曲など有名なメロディーは、やはり皆さんご存じで、楽しんでいただけるように思いますが、クラシックのあまり有名ではない曲でも喜んでいただけたと感じられるときがあります。そんなときは、皆さんと気持ちが通じ合うようで、とても幸せになります。聴いてくださる方に少しでも楽しい気持ちになっていただけたら良いなァと願っています。

コンサートが終わった後は、シャララカフェで美味しいご飯をいただきながら、反省会&次回への作戦会議をしますが、店員さんが名前を覚えてくださって「宗方さ～ん」と声をかけてくださるのも、とても嬉しいです。末永く続けさせていただきたいと思うとても大切なコンサート。こんな機会を与えていただいて、本当にありがとうございます！ 宗方雅子

☆ランチコンサートの予定はホームページまたは館内のポスターをご覧ください☆

#### 腹黒日記～黒々なるままに～

☆名は体を表す☆

読者の皆様もネーミング・ライツという言葉を目にしたことがあるだろう。日本語では命名権。スポーツ施設や文化施設などに企業名や商品名をつけることで、施設の所有者は企業から資金を得ることができ、命名権を獲得した企業はメディアなどを通じて広く宣伝できるという仕組みだ。最近では大阪府泉佐野市が歳入確保のために市の名前を売却しようとしたり、鎌倉市の海水浴場の命名権を鳩サプレーの豊島屋が獲得したことは記憶に新しい。一見、両者にとってメリットの多い仕組みの様であるが、慣れ親しんだ名前を換えるとなるとそう簡単ではない。また、必ずしもじっくり来るものばかりではなく、ちょっと・・・もある。広島市民ではなくマツダズームズームやほっともっと神戸あたりか。エヌ・クラブはソニーなどの「S」から始まる企業は避けたい。ガッツ・ビーと西は、巨人の小笠原道大ならばまだ許せるが、石松には売りにたくない。ウルフルズも困る。やっぱいつもの名前がいいや。（腹ぐるーる）

生活創造空間にし URL：<http://www.souzoukuukannishi.org>

【発行・印刷】生活 創造 空間 にし広報委員会 〒220-0055 横浜市西区浜松町 14-40

☎ 045-250-6506 (ガッツ・ビーと西) ☎ 045-250-6470 (エヌ・クラブ)